



表千家ハワイ同門会 家元教授による、3年ぶり講習会開催

お茶の歴史は古く、8世紀の平安時代にさかのぼり、16世紀の安土桃山時代に千利休が茶の湯を大成させた。

利休の茶の湯の道統は表千家をはじめ、裏千家、武者小路千家のいわゆる三千家を中心として今日まで伝えられている。

表千家の茶道を習う人々の会を表千家同門会と呼び、ハワイ支部は海外で一番歴史が長く、今年で68年になる。

さる8月25日から27日まで、京都から家元教授の木村雅基宗匠を迎え、ハワイ同門会の講習会が、ハワイ日本文化センターにある茶室“星光庵”で3日間に渡り開催された。

10年ほどハワイ支部を担当されている、木村宗匠に話しを伺った。「現在、海外在住の同門会員は25カ国、約1,500人おられ、アメリカ合衆国にはハワイ、サンフランシスコ、ロサンゼルス、ニューヨークなど東部エリアに4つの支部があ



マウイ島のバラの色を模した主菓子

ります。日本国内で行う講習会と同じ内容で、海外の支部でも毎年、家元教授の講習会を開催してきました」

コロナ禍でやむなく中断し、今年は3年ぶりの開催となり、ハワイ支部の会員は心待ちに準備をしたという。「ただ直前に、マウイ島の山火事で犠牲者や被災者が出られました。京都の同門

会本部では、マウイ島に会員の方や関係者がおられないか、古い名簿をさかのぼりながら調べております。心よりお見舞い申し上げます」

講習会では、マウイ島を象徴するロケラニの花の色のお茶菓子を手作りして、一日も早い復興に願いを込めた。

講習会には3日間でのべ50余人の門弟が参加した



海外最古のハワイ支部、 再来年70周年

「2025年、ハワイ支部は70周年を迎えます。今の家元の祖父にあたる13代即中齋は、1955年のハワイ支部立ち上げの時にハワイに赴き、パンチボールの丘で献茶をしました。14代而妙齋は戦艦ミズーリの甲板で献茶をし、その時の白いテントは今もそのまま使っているそうです。2015年のハワイ支部設立60周年の折には、現15代家元の猶有齋が浄土真宗本願寺派ハワイ別院にて、世界平和記念の献茶式を執り行いました」

現在、ハワイ支部では月に1回、星光庵でお茶会をしている。「茶道に触れてみたい、本格的なお茶を飲んでみたいという方、どなたにも開かれた茶会です。ぜひお気軽にご参加くだ

木村雅基宗匠は点前の実技指導、「利休」など教本の講義を行なった



さい」

日本の文化体験をと、海外から日本を訪れる観光客はコロナ後も活況で、MATCHA はすでに世界共通語。衣食住、すべての伝統文化が集約された茶道への期待は高い。

ハワイ同門会にも、ローカルの少女や若い男性が入門し、お稽古の見学体験希望が絶えないという。60周年祝賀の折、茶を点て猶有齋家元に差し上げた佐々木宗慧講師(写真)も多くの弟子を指導している。

「利休さんから450年、多数の先達に培われてきた茶の湯の文化は古格を守るとともに、その時代やその風土との融合も大切です。たとえばハワイという風土を生かし、貝殻の花入を使ったり、トロピカルな花を生けたり、その場にふさわしい趣向を楽しむのもお茶のありよう

です。お茶の型は、相手を思いやる真心から生まれていますから」
茶道のOMOTENASHIとハワイのALOHAには共通する心がある。あなたもぜひ、ハワイでお茶してみませんか。

表千家『星光庵月釜』お問合せや申込は(808)927-2696(KUMIKO OKIMOTO)



「日本でなら、宗匠に稽古をつけてもらうなどあり得ない!」と、皆、真剣



木村宗匠と佐々木宗慧講師

(取材・文 奥山夏実)
(写真 中居聖珠)